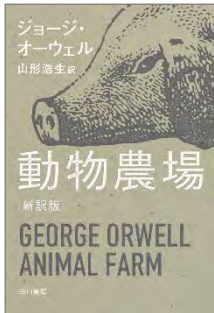


名城大学のみなさん 名古屋市瑞穂図書館 おすすめ本

こんにちは。瑞穂図書館では、名城大学ブックショップ（ちくさ正文館書店）のご協力で、学生のみなさんにおすすめの本をご紹介します。勉強・研究・サークル活動の合間にお楽しみください。愛知県在住または通学・通勤の方は、名古屋市図書館の貸出券が作れます。ぜひ、お近くの名古屋市図書館もご利用ください！

気づけば、恐ろしい独裁に



『動物農場』

ジョージ・オーウェル／著 早川 epi 文庫

1945 年出版の風刺文学。横暴な人間から動物が農場を奪い取り、全ての動物の平等を理想とする動物農場がスタートしますが、気づいた時には知力に勝るリーダーであるブタによる恐怖政治が実現してしまいます。

History as a dialogue with oneself

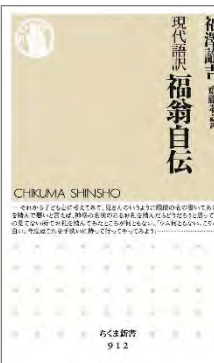


『自分のなかに歴史を読む』

阿部謹也／著 ちくま文庫

歴史は決して暗記ではありません。ドイツ中世史を一生の仕事に選んだ著者のメッセージは、歴史を学ぶことは経験を振り返り、自らを形成している社会についてじっくり検討すること。特に新入生におすすめします。

日本が誇る最高峰の自伝



『現代語訳福翁自伝』

福澤諭吉／著 斎藤孝／編訳 ちくま新書
幕末から明治を切り拓いた福澤諭吉の自伝です。堅苦しいところがなく、とっても面白い！
学問好きながら藩に仕え、日の目を見ることなく43歳で亡くなった父に思いを馳せ、「門閥制度は親の敵でござる」と記すなど、カラーした持ち味が随所で光ります。

大人になることは難しい。けれど、面白い



『「若者」をやめて、「大人」を始める』 熊代亨／著 イースト・プレス
20代のつもりの40代や、なかなか「自分さがし」をやめられない人が増えていると言います。経済低迷や雇用流動化も「大人」になりにくい環境を作っていると思われそうですが、自分を少し犠牲にしても人の面倒を見るなど「大人」の価値と魅力を考えてみましょう。

気持ちを楽にしてコミュニケーションを



『わかりあえないことから』

平田オリザ／著 講談社現代新書

コミュニケーションもリーダーシップも重要。でも、自分の思いを上手に伝えられない人も大勢います。著者は論理的に話せない人の気持ちをくみ取れる人になれることを大切にすべきと言います。希望を持って「みんながって、たいへん」な社会を生きてゆきましょう。

近いけれど知らない、台湾の若者と歴史



『流(りゅう)』

東山彰良／著 講談社文庫

1970～80 年代の台北が舞台の熱気あるミステリー。祖父を殺害された高校生の主人公・葉秋生（イエチウシェン）は、犯人を突き止めようとしながら、友人との交流、軍隊体験を経てたくましく成長。祖父の死には戦時中の悲惨な事実が関わっていました。

短い歌に込められた心の叫び



『辞世の歌』

松村雄二／著 笠間書院

死に際して自らの思いを込めた辞世の歌。「我死なば焼くな埋めるな野にすてて飢えたる犬の腹をこやせよ」（歌川広重）など歴史の人物の和歌が盛りだくさん。過去への親しみとともに今を生きるヒントも見つかります。

研究室を飛び出し、未知の世界で挑戦！



『バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎／著 光文社新書
バッタ大好き少年が研究者となり、バッタが作物を荒らすモーリタニアで調査に臨みます。現地でも解明されていないバッタの生態を探るための砂漠でのキャンプ調査の様子などバイタリティーあふれる読み物です。

ツボ・鍼灸・漢方のメカニズムを解説



『東洋医学はなぜ効くのか』

山本高穂・大野智／著 講談社ブルーバックス

鍼灸で「痛み」が和らぐのはなぜか、手のツボが便秘に効くのはなぜか。漢方薬は体内で「なに」をしているのか。東洋医学のしくみをわかりやすく学べるブルーバックスシリーズです。

若手研究者がタンザニアでキリンを観察



『キリンの保育園』

齋藤美保／著 京都大学学術出版会

キリンはどうやって子育てしているのだろう。それを研究したくなり、いざタンザニアへ！日本で唯一の野生キリンの研究者である著者が見つめたキリンの子育て物語です。

今一番面白い中国歴史エンターテインメント



『両京十五日』(全2巻)

馬伯庸／著 齊藤正高・伯功／訳 早川書房

北京から南京に派遣された皇太子・朱譚基(しゅせんき)は、船を爆破され命からがら脱出。そこで皇帝である父危篤との知らせを受け、秘密裏に北京へと向かう。3人の仲間と、政変発生のリミットの15日以内に戻れるのか!?ドキドキの1冊。

動物のコミュニケーションからヒトの社会を考える



『動物たちは何をしゃべっているのか?』

山極寿一・鈴木俊貴／著 集英社

シジュウカラは「タカが来た!」と「ヘビが来た!」では鳴く声が違う。動物たちは何を考えて、どんなおしゃべりをしているのか。鳥類の研究者とゴリラの研究者が、動物研究の最先端を語り合います。

語源を知れば楽しみ倍增



『世界はラテン語でできている』

ラテン語さん／著 SB新書

ラテン語なんて関係ない?そんなことはありません。「メルカリ」もラテン語が由来!?実は私たちの周りにある施設や製品の名前にもラテン語由来のものがたくさん!そんなラテン語の歴史と魅力に触れてみませんか。

著者は愛知県。新鮮で面白い世界を体験



『めざせ!ムシヨラン三ツ星』

黒柳桂子／著 朝日新聞出版

著者は刑務所栄養士。毎月メニューを考え、週に1~2回は受刑者と一緒に炊事工場に立ち、調理指導します。受刑者の「ウマかったっす」という言葉が聞きたくて、制約の多い中で工夫し、おいしい給食を作ります!

写真集。花柄のワンピースが語るもの



『ひろしま』

石内都／著 集英社

手作りの愛らしいワンピースやブラウス。戦時下、それらを身に着けることはささやかな喜びだったのでしょうか。その日の朝の衣服は、熱線に焼かれ黒い雨にうたれた。被爆遺品の写真集です。

「あたりまえ」をひっくり返してみる



『ひっくり返す人類学』

奥野克己／著 ちくまプリマー新書

私たちの「あたりまえ」が「あたりまえ」じゃない世界がある。「あたりまえ」をひっくり返して柔軟な心で見てみると、新たな気づきに出会うかも。大学生のみなさんに読んで欲しい1冊です。

名古屋市瑞穂図書館

<https://www.library.city.nagoya.jp/>



〒467-0012 名古屋市瑞穂区豊岡通3丁目29番地 電話 052-853-0450

【開館時間】 平日・土曜日 9時30分～19時／日曜日・祝日 9時30分～17時

【休館日】 月曜日(祝日は開館し、翌日に休館)／第3金曜日／年末年始など



「名古屋市図書館共通貸出券」の作成には、お名前・住所の確認できる証明書(運転免許証・健康保険証など)が必用です。ご来館の際にお持ちください。

名古屋市図書館ホームページでは、本の検索もできます。

2025年1月作成